

入院診療計画書② ロボット支援前立腺全摘術

ID: 患者ID _____

新規作成日: 新規作成日 _____

氏名: 氏名 _____

日付	12月31日	1月1日		1月2日	1月3日	1月4日
経過	1日前	手術前	手術後	1日後	2日後	3日後
目標	転倒転落なく安全に過ごすことができる 手術について理解できる 入院生活について理解できる	安全に手術を受けられる	術後の経過に問題はない 創痛時、適切に対応受けられる	術後の経過に問題はない 創痛時、適切に対応受けられる 離床ができる	術後の経過に問題はない 創痛時、適切に対応受けられる 離床ができる 食事摂取でき、消化器症状がない	術後の経過に問題はない 創痛時、適切に対応受けられる 食事摂取でき、消化器症状がない
注射		9時30分以降の手術の場合は病棟で点滴を開始します	継続して点滴行います 術後6時間後に抗菌薬を投与します	500mlの輸液4本を持続で投与します。 抗菌薬を朝と眠前に投与します	500mlの輸液3本を夕方まで投与します。 抗菌薬を朝と眠前に投与します	500mlの輸液2本を投与します 終了後針を抜きます
投薬	普段内服中の薬を確認します 14時に下剤を内服します	朝、少量の水で内服していただく場合は看護師が渡します			内服薬の再開については看護師がお知らせします	
検査	採血をします。		手術後、採血を行います	朝、採血があります		
放射線			病室で胸腹部ポータブルX線撮影を行います	病室で胸腹部ポータブルX線撮影を行います		
処置	臍の掃除を行います 血栓症予防のため靴下のサイズを測り準備します	手術着に着替えます。 血栓症予防のため靴下を履きます	手術後、酸素マスクを使用し、心電図モニターを装着します 血栓症予防のための機械を足につけます	経過に問題がなければ心電図モニター、血栓症予防のための機械を外します 回診時、創部の観察を行います 歩行確認したら弾性ストッキング脱	回診時、創部の観察を行います	
食事	夕食後より食べることは出来ません 夜0時以降は飲むことも出来ません	飲水、食事は出来ません うがいは出来ます	飲水、食事は出来ません うがいは出来ます	医師に確認後飲水開始となります	腸の動きを確認し、食事が開始となります 尿路感染を予防するため、1日に1L~1.5Lの水分を取りましょう	
清潔	16時までに入浴します	朝、洗面をお願いします 入れ歯をしている人は外しておきましょう	うがいすることができます	看護師と一緒に身体拭きをします	身体拭きをします 陰部を清潔にします	
排泄			手術室で尿道に管が入ります 痛みなどあるときは看護師に伝えてください 尿の管は術後7日まで入ります			排便時、力を入れすぎないように便通調整を図っていきましょう 状況により薬を処方することがあります
活動	安静度	制限はありません。	ベッド上安静です 起き上がることは出来ません 寝返りは出来ます	病棟内歩行ができます (看護師と一緒に歩きます)	術後合併症予防のためにも歩行することが大切です ふらつきなどあるときは看護師と一緒に歩きます	
	リハビリ	リハビリテーションの予定はありません。状況により入院途中より行うことがあります				
看護ケア	入院時と寝る前に血圧などを測ります	朝と手術室に行く30分前くらいに血圧などをはかります	帰室時、30分後、1時間後、2時間後、4時間後、以降2時間毎に血圧などをはかります	6時まで2時間毎に血圧などをはかります。その後は午前中、午後、寝る前にはかります	朝、午前中、午後、寝る前にはかります	
確認事項	腕に識別バンドをします 手術室に持参する物品(T字帯、平おむつ、腹帯)を確認します 医師からもらった同意書にサインをして、看護師に渡してください 歯科にかかる場合があります	眼鏡、貴金属類は外してください 貴重品は家族に預けましょう 家族の方は、手術中病棟で待機して頂きます		口腔内の確認をするため歯科にかかる場合があります		
指導	入院生活や手術のための準備、手術後の状況について説明をします 入院中安全に過ごせるよう、ベッドの高さなど調整します 医師より病状と手術の説明があります 家族の方とお聞きください 外来で説明されている場合もあります 麻酔科医の診察があり、手術時に行う麻酔についての説明があります 手術室看護師の訪問があります 薬剤師が普段内服している薬の確認と入院中に使用する薬の説明をします 不明な点や心配なことなどありましたらご相談下さい			尿の袋はベッドの脇にさげ、床につけないようにしましょう 歩行時は、膀胱より下の位置で持って下さい 尿の管を折り曲げないように注意が必要です 尿の管の周りから尿が漏れても異常ではありません 看護師にお知らせ下さい		

ID: 患者ID _____

新規作成日: 新規作成日 _____

氏名: 氏名 _____

日付	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日	1月10日	1月11日	
経過	4日後	5日後	6日後	7日後	8日後	9日後	10日後	
目標	転倒転落なく安全に過ごすことができる 術後の経過に問題はない 創痛時、適切に対応受けられる 食事摂取でき、消化器症状がない 排便コントロールについて理解できる			自尿があり、排尿障害の症状がない 尿漏れ時対応が出来る 骨盤底筋体操の必要性がわかり実践出来る	自尿があり、排尿障害の症状がない 骨盤底筋体操の必要性がわかり実践出来る 日常生活の注意点について理解できる			
注射								
投薬								
検査								
放射線			尿道の造影検査があります 結果により翌日尿の管が抜けます					
処置	回診時、創部の観察を行います 排液量によりお腹に入っている管が抜けます（術後4日目～6日目の間）			前日の検査で問題が無ければ、回診時に医師が尿の管を抜きます				
食事								
清潔	お腹の管がぬけるとシャワー浴ができます 管が抜けるまでは身体拭きと陰部の清潔を続けます			シャワー浴が出来ます			退院後1週間はシャワー浴をして下さい その後は入浴可能です 次回外来までは銭湯などの共用浴場の利用は控えて下さい	
排泄				尿の管を抜いた後は血尿や尿の中に組織片が出る 事がありますが心配ありません 血尿が濃くなった場合は看護師に見せて下さい 尿が出ないときや、おなかが張って苦しいときは すぐに看護師にお知らせ下さい 尿量を確認します。尿漏れがある場合は尿取り パットの重さも測定します 尿量・オムツの測定方法は看護師がお伝えします				
活動	安静度	制限はありません 術後合併症予防のためにも歩行することが大切です					徐々に活動量を増やして下さい 急にお腹に力を入れるのは控えてください	
	リハビリ	リハビリテーションの予定はありません						
看護ケア	朝、午前中、寝る前にはかります		午前中、寝る前にはかります			朝に体温をはかります ネームバンドカットしてから退院です		
確認事項		尿の管を抜いた後は尿が漏れる可能性があるため検査日までに尿とりパッドを用意してください					忘れ物ないか確認して下さい	
指導		尿の管を抜いた後の尿漏れについて、骨盤底筋体操の説明をしていきます パンフレット（指導前に別紙渡します）と照らし合わせながらDVDを視聴していただきます 不明な点や心配な事がありましたら看護師に相談してください		痛みのない程度で骨盤底筋体操を始めて下さい		退院時の状態に合わせてお薬を処方する場合があります 看護師より退院後の生活について説明をします 次回外来受診日、時間、会計を含めた退院方法の説明をします 術後の結果などについては医師より次回外来で説明があります	9時過ぎに請求書が届きます 迎いは9時頃をお願いします 会計後にスケジュール表や診察券などを渡し、退院になります 9時30分頃の予定です 退院後も骨盤底筋体操を続けてください 現在、尿漏れがある場合でも、長期間体操を続けることで徐々に改善します	